

《大雪山グレード（利用体験ランク）の適用事例》

大雪山グレードの登山道への適用事例はつぎのとおりです。

グレード5の事例：オプタテシケ山～三川台～トムラウシ山

	グレード 5	大雪山の極めて厳しい自然に挑む登山ルート
		<ul style="list-style-type: none">地形的条件等から天候判断がより難しく、且つ登山口からの距離や避難小屋の間隔が長くエスケープを取りづらい登山ルートや徒渉や岩場通過等高度な技術を要する登山ルート自然の雰囲気の保持を最優先とした登山ルート登山者自らのリスク管理が必要とされ、極めて高度な行動判断を要求される登山ルート

この区間は、大雪山国立公園の中でも最も人為的な整備が少ない登山道で、分岐における指導標識*、主たる山に設置された山頂標識以外の人工構造物は設置されていません。遅くまで大きな雪渓が残る箇所やヤブ化した区間があり、ヒグマも多く生息しています。

ルート途中に野営指定地はあるものの、避難小屋はありません。登山口から遠くエスケープルートもない区間であるため、行程管理、天候判断等きわめて高度な行動判断が要求されるルートです。

原始性の高い自然の雰囲気の保持を最優先とし、指導標識等の既存施設の確認等必要最小限の管理を行っています。



グレード4の事例：北海岳分岐～白雲岳分岐～白雲岳避難小屋

	グレード 4	大雪山の厳しい自然に挑む登山ルート
		<ul style="list-style-type: none">地形的条件等から天候判断がより難しい登山ルートや登山口、ロープウェイ駅からの距離が長く日帰りに適さない登山ルート自然の雰囲気の保持を最優先とした登山ルート登山者自らのリスク管理が必要とされ、高度な行動判断を要求される登山ルート

この区間は表大雪の中でも原始性が高い自然環境であり、縦走登山者が多く利用する区間です。登山口から日帰りも可能ですが、長時間の強行行程となります。稜線上に位置し、天候判断を自ら行い、最善の行動に向け判断する能力が要求されます。

この区間には、白雲岳避難小屋と白雲岳野営指定地があり、トイレも設置されています。原始性の高い自然の雰囲気の保持を最優先とした管理を行います。



グレード3の事例：姿見園地～旭岳

	グレード 3	大雪山の自然を体感する登山ルート
		<ul style="list-style-type: none">・登山口、ロープウェイ駅からのアクセスが比較的良好く、日帰り程度の距離で設定された登山ルート・歩行の快適性よりも自然の雰囲気の保持を優先した登山ルート・登山者自らの一定のリスク管理が必要とされ、一定の行動判断を要求される登山ルート

この区間は、旭岳登頂、旭岳から裾合平の周回、旭岳ロープウェイから黒岳ロープウェイ間の日帰り縦走等で利用されている大雪山のメインルートで、道内外から多くの登山者が訪れています。

この区間は、ガレ場*も出てくる風衝地*です。ルートは比較的明瞭ですが、悪天時には視界が著しく悪化しルート判別が難しくなります。そのため、濃霧になると旭岳からの下山時にルートを見失いやすく、遭難事故も発生しています。

ここでは、雄大な大雪山の自然の雰囲気を保ちながら管理を行います。



グレード2の事例：姿見園地～裾合平分岐

	グレード 2	大雪山の自然とふれあう軽登山ルート
		<ul style="list-style-type: none">・登山口、ロープウェイ駅舎からのアクセスが良く、比較的短距離で設定された登山ルート・段差処理、ぬかるみ対策等に努め、一定の歩行の快適性の確保に配意されている登山ルート

この区間は、姿見園地から裾合平の往復に利用されるほか、旭岳登頂の下山コースや黒岳からの縦走、愛山渓からの縦走に利用されています。夏山シーズン中はルートが明瞭で、こまめな登山道の保全修復作業が行われているため、歩きやすい道になっています。ただし、シーズン初めは雪渓が残っているため、旭岳ロープウェイ姿見駅のレクチャーを参考に慎重な行動が必要です。

ここでは、登山初級者が自然とのふれ合いを楽しむことができる、歩きやすく整備された道となるよう管理を行います。



グレード1の事例：紅葉谷入口～紅葉滝

	グレード 1	大雪山の自然とふれあう探勝ルート ・温泉施設やロープウェイ駅舎からのアクセスが良く、比較的高低差が少なく設定された一般観光利用者向けルート ・段差処理、ぬかるみ対策等に努め、一定の歩行の快適性の確保に配意されている探勝ルート
---	-------------------	---

このルートは、層雲峠温泉から近く、紅葉谷入口から紅葉滝まで1時間程で往復できる高低差が少ない歩きやすい道です。柱状節理や紅葉滝、クマゲラ採餌木等を間近に観察でき、層雲峠温泉を訪れた観光客の散策やエコツアーに利用されています。

ここでは、一般観光客が自然とのふれ合いを楽しむことができるよう、一定の快適性が確保された道となるよう管理を行います。

